

座長コラム「長岡の風」

第21回 2025年11月

インドに行ってきた

長岡経済・産業連携会議 座長：高野裕

「スワデジ・スワラジ」

あのガンジーが掲げた標語だという。意味は「自国品を買う・自国で作る」。イギリスからの独立を成し遂げたガンジー。今なおインドで尊敬されている人物だ。そして、現在のモディ首相が掲げている政策が「メイク・イン・インド」自国主義だ。インドの製造業が14%しかない。それを25%に上げるべく、自前主義を貫いているという。これは雇用の創出を狙っている。事実、街のあちこちで若い人々が早朝からたむろしている姿を見る。地元のガイドが、あの人たちは日雇いの仕事を求めて集まってきていると教えてくれる。働き口が足りないと思った。

「ジュガード」

これはインドに根付くインド人の精神、問題が起きたらすぐに限られた材料を活かして対処すること。逆にいえば、問題が発生した時、すぐに表面的に解決して、再発防止や根本問題を考えないということのようだ。すなわち、この国では計画的に先を読んで行動することより問題が発生してから考えて、ようやく行動するという人が多い。緻密な計画を立てて事前準備をしっかりと対応することは日本人であって、インド人は問題が起きるまでは何もせず、問題が起きてからようやく考えて行動するという。また、日本人が完璧と考えるのは95%以上だが、インド人は70%以上で十分だという。さらに、何かプロジェクトを始める時、インド人はそのコンセプトを一晩で何ページも書いてくるが、日本人は実施計画を細かく書いてくるともいう。

「簡単・短く・確認」

インドは多言語で、州が違えば言葉が違ふ。そのため会話をするとき、簡単に、短く、相手が理解したか確認しながら現地の人に話すという。これは普段の我々の会話でも心がけることではないかと思った。「簡単・短く・確認」を心がけるようにしようと思った。

「おしん」

空調設備のダイキン工場を訪問。この会社はインドでDj IME (Daikin Japanese Institute for Manufacturing Excellence) という職業訓練学校を開設。日本国とインド国の合意により開設された学校だ。初年度(2019年)30人の受け入れは全て女性だった。そこは寄宿舎があり、食事が支給され、手当も出されるという。当然授業料など全て無料だ。私がデリーの街中で多くの貧困者を目にした。多くの国民は農業従事者で、結婚の95%はお見合い、親が決めてくる相手と女性は結婚する。そして、農村ではまだカースト制度が色濃く残っている。女子は下手に教育など身につける必要はないとの考えも強く残っている。あのNHK「おしん」の世界が目に見えた。私はこの職業訓練校を訪問して、長岡の米百俵の精神を思い出していた。まずは教育なのだと。参考「ダイキンのインドにおける人材育成 【ダイキン】」(<https://www.youtube.com/watch?v=JjS7Y-i5PV4>)